

歴史散歩



たかのゆいもり 高野井と堰守神社跡

一志地域の高野団地を抜け、北西へ道を下ると高野井用水の取水堰と取水口があります。現在はコンク



リート製に姿を変えています。江戸時代に開削された用水で、この付近を起点に山沿いの水路から高野村をはじめ下流域の水田などに給水し、今もその役割を果たし続けています。

寛永年間(1624～1644年)、二代目津藩主の藤堂高次の時代、度重なる干ばつによって多くの農民が稲の不作に苦しんでいました。そこで、八太村の大庄屋だった田上八太夫は、付近の庄屋に呼び掛け、郡奉行の山中為綱に高野村の用水を下流域の八太村へと引くことをお願いしました。

これを受けた為綱は自ら水路を調査し、藩主の高次に願い出て、正保2(1645)年に新たに取水口を設け、下流域の各村への用水路の開削に着手しました。工事は同年3月に着工、9年をかけた大工事となりました。これにより高野村をはじめ、日置村、庄村、八太村、片野村、田尻村、其村、須ヶ瀬村の8村は高野井から水の供給を受け、その恩恵にあずかる田地は約509haに及びました。8村は、為綱の偉業をたたえて没後、堰守神社に為綱を祭神として祭りました。

堰守神社は明治41(1908)年に高岡神社ごうしに合祀されましたが、三重県中勢水道事務所から南西に進み、高岡山中腹の山道を通ると、神社跡の石碑が残ってい

ます。神社跡からさらに南西に下ると唐戸石からとしと呼ばれる雲出川に面した大岩に、承応二癸巳年(1653年)三月という高野井の完成年月が刻まれ、高野井の歴史を静かに伝えています。

高野井は、大正14(1925)年からコンクリート化が始まり、昭和38年から41年までの工事で延長約3.4kmの用水路の改修が完成しました。昭和46年からは、上水道もこの高野井から取水し、多くの人々が雲出川の恩恵を受けています。



堰守神社跡の石碑



唐戸石

